

令和6年度生涯学習センター事業運営の考え方

1 社会情勢の変化と基本的な考え方

近年、少子化や人生100年時代の到来、社会全体のデジタル化、新型コロナウイルス感染拡大に伴う生活様式の変化など、社会環境がめまぐるしく変化し、人々の行動・意識・価値観も変容する中、住民同士のつながりの希薄化が進み、個人に多様な能力が必要とされることから、社会の変化に対応できる人間力を高める多様な学習機会の提供や学習を通して人々のつながりを深める生涯学習環境の充実が求められている。

生涯学習センターの事業運営は、令和5年度2月に策定した「第3次宇都宮市地域教育推進計画後期計画」に基づき、取り組んでいく。計画の策定2年目となる令和6年度については、「令和5年度生涯学習センター事業運営の考え方」を基本としながら、令和5年度上半期の実績等を踏まえた新規事業や見直し事業に取り組み、内容の充実を図っていく。

(参考) 生涯学習センターで取り組む事業

継続	新規	見直し
<ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド型の講座の実施 ・企業等との連携 ・学校や家庭ではできない体験学習等の実施 ・地域や外国人、親子等、参加者間の交流の場の提供 ・孤立しがちな子育て世代のコミュニティ形成 ・地域課題の共有、地域への興味・関心や郷土愛の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・リピーターでなく、新規の参加 ・働き世代やプレシニア世代の参加 ・SNSの活用など、若い世代へ向けた地域の魅力発信 ・講座実施後のフォローアップ（スマホ講座におけるデジタルサービスの利活用など） ・SNS等、デジタル技術を活用した講座の周知及び参加者募集 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を固定せず、参加者の状況やレベルに見合った講座の実施 ・土日開催や託児の充実など、開催日時等の工夫 ・男女ともに参加しやすい環境の整備 ・サークル団体の活動に結びつく参加型体験型の講座の実施

2 第3次宇都宮市地域教育推進計画後期計画について（令和5年度～令和9年度までの5か年計画）

基本理念

学びを通して、社会の変化に対応できる高い人間力を育むとともに、地域ぐるみの教育活動により、一人ひとりが活躍できる社会を実現する。

基本目標Ⅰ	基本目標Ⅱ	基本目標Ⅲ	基本目標Ⅳ
一人ひとりが自己の実現や生活の向上、地域社会の発展に向けて主体的に学習に取り組んでいます。	地域・学校・家庭が相互に連携・協力した教育活動を通して、地域全体で学び合い育ち合っています。	多様な主体や人がつながりを深め、様々な場面で学んだ成果を生かして活動しています。	学習や学んだ成果を生かした活動に継続的に取り組める環境が整っています。

【事業全般で意識していく後期計画の特徴】



デジタルも活用して誰もが分け隔てなく参加できる、学べる環境づくり



学びの礎となる読書を推進し、市民の豊かな人間性を培うとともに課題解決力を向上(課題解決のサポートも含む)



大学や企業の協力なしではできない高度(または専門的)な学習及び様々な活動へとつなげる人材育成

3 生涯学習センター事業運営における重点項目について

「令和5年度生涯学習センター事業運営の考え方」を基本とした下記の4点の方向性を重点的に取り組んでいく。令和5年度上半期の実績等を踏まえた継続・新規・見直しの視点から、第3次宇都宮市地域教育推進計画後期計画の基本理念の実現に向けて、内容の充実を図る。

(1) 地域住民の学習意欲の高揚と生活の向上に資する事業の推進

一人ひとりの主体的な学習活動を支援し、個人の成長や自己実現を促す講座等を開催する。

- ・「学ぶ楽しさ」を感じ、「仲間づくり」につながる講座の開催
- ・パソコンやスマホ教室、防災に対応した講座、コロナ禍における開催方法を工夫した講座など、「社会的課題に対応した講座」の開催
- ・Z o o mやY o u t u b e等のデジタル技術を活用したハイブリッド型の講座等の開催や学習の推進
- ・参加者の状況やレベルに見合った講座の実施や、講座実施後のフォローアップ
- ・S N SやQRコード、電子申請システム等、デジタル技術を活用した若い世代への講座の情報発信や参加者募集

【参考】後期計画の基本指標

主体的に学習に取り組んでいる市民の割合

令和3年度 23.9% → (令和9年度 50.0%)

(2) 地域・学校・家庭が連携・協力し、一体となった教育活動の推進

家庭の教育力向上を促す講座の開催や、家庭・学校・地域が連携する、つながるきっかけづくりなど、地域全体で子どもを育む教育活動の支援に取り組む。

- ・子育て世代の保護者の気づきや悩み解決、親子の交流や仲間づくり、ネットワークづくりを促す参加交流型や体験学習型講座等の開催
- ・土日や平日夜の講座の開催など共働き世代等でも参加しやすい環境づくり
- ・魅力ある学校づくり地域協議会等の教育活動を支援する団体への支援や、学校・地域・企業等と連携して子どもの成長を支える教育活動を推進する子育て世代や青少年を対象とした講座の開催

【参考】後期計画の基本指標

地域における学習支援や体験活動等の教育活動に参加した活動者数及び児童・生徒数

令和3年度 81,171人 → (令和9年度 170,000人)

〈内訳〉活動者数 (令和3年度)20,555人 → (令和9年度)30,000人

児童・生徒数(令和3年度)60,616人 → (令和9年度)140,000人

(3) 地域理解を促進する講座と学んだ成果を活動につなげる仕組みの充実

地域や社会を支える人材の育成に向けて、地域理解を促す講座や学んだ人が様々な活動主体とつながる学習機会を提供する。

- ・「地域学講座」など、地域課題を共有し、地域に対する理解や愛着を育む講座の開催
- ・S N Sやデジタル技術の活用による若い世代へ向けた地域の魅力発信や「仲間づくり」の促進
- ・N P O・大学・企業等と連携し、専門的な知識や技術を獲得することができる学習機会や情報の提供
- ・サークル団体の活動に結びつく参加型体験型の講座の実施

【参考】後期計画の基本指標

地域に貢献する活動に参加している市民の割合

令和3年度 29.5% → (令和9年度 35.0%)

(4) 持続的に地域住民の学習や活動、交流を支援する地域教育の基盤の強化

市民が学習や活動をしやすい環境整備とともに、学習相談、情報提供等の機能の充実を図るなど、地域拠点としての基盤の強化に取り組む。

- ・生涯学習団体や教育活動を行う団体等への施設貸出など、場の提供による活動の支援
- ・生涯学習情報提供システム(マナビス)の積極的な情報発信など、学習者や活動したい人を様々な活動へ結びつける学習相談支援サービスの充実
- ・幅広い年代の地域住民等が「交流・活動する場」として、施設の環境整備や役割の周知

【参考】後期計画の基本指標

学習や活動を行う環境に満足している市民の割合

令和3年度 - % ➡ (令和9年度 50.0%)

(現時点での実績値がないため、今後、市民意識調査で確認し、目標値を決定)

4 生涯学習センターの役割

- ・市民の最も身近な地域の学習と活動の拠点として、SDGs, 市民協働, 文化振興, 男女共同参画, 福祉, 国際化など, 地域教育に関わる本市の多様な分野の計画も踏まえた, 多様な学習機会の提供を通じた, 意識醸成の推進
(各分野の講座を開催するわけではなくとも, アイスブレイクで各分野の意識醸成を取り入れる, 各分野の啓発チラシを配布する等も含む)
- ・地域特性や地域住民のニーズなどを踏まえつつ, 個人の要望と社会の要請のバランスに配慮した講座の実施や, 学びを通して人々がつながり, 学び合うことができる機会の提供
- ・NPO・大学・企業等と積極的に連携し, 学習の分野を広げるとともに, その専門的なスキルやノウハウを活かして個人の成長を促す講座の実施
- ・土日や平日夜など講座等の開催日時の検討や託児の充実, SNSや動画配信などの実施方法を工夫した講座の実施, QRコードや電子申請システム等を活用した情報発信など, デジタル技術を活用した幅広い年代の参加の促進
- ・地域活動団体と協働・共催した講座や文化祭・地域のイベントの開催など, 学んだ人が意欲的・主体的に地域とつながる事業の実施
- ・地域住民や多様な団体が交流・活動しながらつながる場として, 施設の活用を促す事業の推進